



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	山取苗木の利用に関する近年の動向
Author(s)	夏目, 俊二; 門松, 昌彦; 滝川, 貞夫
Citation	北海道大学演習林試験年報, 6, 10-11
Issue Date	1989-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72817
Type	departmental bulletin paper
File Information	1987_1-5.pdf



I - 5 山取苗木の利用に関する近年の動向

中川地方演習林 夏 目 俊 二
 名寄林木育種試験場 門 松 昌 彦
 経営研究部門 滝 川 貞 夫

大型機械を用いた地ごしらえは、北海道森林施業における育林技術の要として、事業的に定着した感がある。この「ブル地ごしらえ」は、現在も様々な問題点を抱えているが、今後その対象がいわゆる高海拔の更新困難地へと拡大していくことは十分予想されるところである。

現在、各地方演習林では山苗利用に関する研究を進めているが、こうした状況を考えても今後さらにその内容を充実させていく必要があるだろう。

そこで今回は、山苗植栽の意義と利用状況について簡単にまとめた。

1 山取苗木の得失

まず、得失を考えてみよう。利点については以下のように考えられる。

1. 育苗困難な樹種を入手できる。
2. 育苗経費の軽減。
3. 開芽時期のズレが少なく、良好な生育が期待できる。

欠点は次のようにまとめられよう。

1. 需要にあった樹種、数量が確保される訳ではない。
2. 根系が養成苗木に劣る。
3. 育種的改良が困難。

2 山取苗木による更新例

山取苗木を利用できる樹種であるが、苫小牧地区の工場緑化に用いた例では、カエデ類・アオダモ・ヤチダモ・ミズナラ・ナナカマド・カツラ・ハルニレ・キハダなどの適応性が高く、ホオノキ・キタコブシは活着が悪いとされている。表一に示した天塩地方演習林の調査によれば、このほかにハリギリが有望であることが分かっている。また雨龍地方演習林での観察によれば、ホオノキも林間苗圃に移植した時点では活着良好であった。

表一 山取苗木の樹種別生存率

樹 種	植栽後2年目の生存率(%)
ウダイカンバ	0.0
ダケカンバ	51.6
キハダ	59.4
ミズナラ	47.0
ハリギリ	75.7

滝川ら(1983)より調整

3 功程および経費

雨龍地方演習林で昭和60年に実行した広葉樹山取苗木の掘取り・植栽の功程は、表—2のとおりである。当然、功程は採取地と植栽地との距離や希望する樹種が固まって更新しているかによって異なる。ハリギリのように刺があって扱いづらいものなど、樹種によっても違ってくる。功程をあげるには、どこにどのような樹種があるか常時観察しておく必要がある。

表—2 北海道大学演習林における広葉樹の山取苗木の功程

樹 種	1人1日当りの本数	備 考
キ ハ ダ	掘取・植栽 54	} 同 日
ホ オ ノ キ	掘取・植栽 11	
シ ナ ノ キ	掘取・植栽 10	
ハ リ ギ リ	掘取 40 植栽 27	

育林経費の面では、前述の苫小牧工場緑化の場合、ナナカマド（樹高3m以上、胸高直径3cm）で養成苗木と山取苗木を比較したところ、後者で43%の経費が節減されたという。

4 移植の時期と方法

山取苗木の採取時期は、成長休止期がよい。移植に際しては、養成苗木と同様根系を乾かさないうよう注意する。北海道では、秋の降雨前が適期と考えられる。また山取苗木は、細根が発達していないことが多いので、掘取にあたっては根をいためないように注意する。

天塩地方演習林では、これらの点を考慮して移植にポットを利用して9月頃実行している。土壌条件の良い所はビニールポットを用い、ポットからとりだして植栽する。土壌条件の悪い所では、それ自体が肥料となるジフィーポットをつかっている。

雨龍地方演習林では、ポット代節減のため新聞紙をホッチキスでとめて袋状にし、そのなかに苗木を植え込みそのまま植栽している。

5 そ の 他

九州大学北海道演習林（足寄）でミズナラの天然下種更新における補植用として山取苗木を林間苗圃で育成した報告がある。それによると、補植施行地で林道に接したところに平坦で腐植層の薄い裸地を捜し、地表面の凍結土壌が完全に融ける5月上旬に採取しジフィーポットに移植した天然稚苗を定置する。

定置のときには土を散布しポット間の隙間を埋めた。そして当年7月中旬以降に補植する。3年生の成長開始期に於ける台切りにより形質の優良化が図られるため、天然生苗木の形質は問題にしていない。

ハリギリは、台切りを施すと萌芽により成長が促進される。雨龍地方演習林の実行例では、樹高10cm程で台切りしたものが4年目で最大190cmまで成長しており、台切りしない個体に3～4年で成長が追いついてくる。しかも、ハリギリには刺があるので、台切りすると植栽や運搬時に扱いやすいという便利さがある。